世界かんがい施設遺産

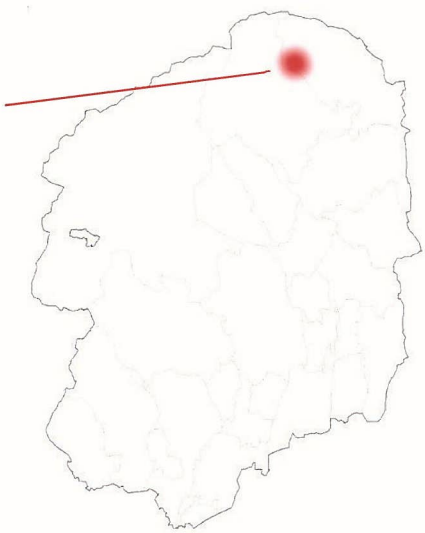
なすそすい

那須疏水

［栃木県・那須塩原市 他］

Nasu-sosui Irrigation Canal

不毛の地、那須野ヶ原に
命の水をもたらした
日本三大疏水の一つ



■栃木県の那須野ヶ原は広大な扇状地ながら、水が地下に潜ってしまうという特異な現象のため、「手にすくう水もなし」といわれた日本有数の荒野でした。

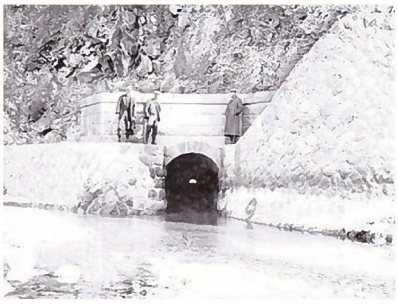
■明治に入ると原野開発の機運が高まります。初代栃木県令鍋島幹らが立てたのが、那須・東京間を結ぶ「大運河構想」。この案に強く影響を受けたのが、印南丈作、矢板武という村の有力者でした。2人は、この事業実現のため献身的な活動を展開。紆余曲折を経たものの、明治18年（1885）、日本三大疏水のひとつと言われる「那須疏水」が完成しました。そのスピードは、那珂川から引いた延長約16kmの幹線用水路を約5ヶ月で完成させるという驚異的なものでした。

■その後、昭和に入り、昭和42年（1967年）から農林水産省による国営那須野原開拓建設事業が行われ、今日の那須野ヶ原は、大規模な稲作地帯となりました。

水のない蛇尾川

水を汲む様子

旧蛇尾川サイフォン

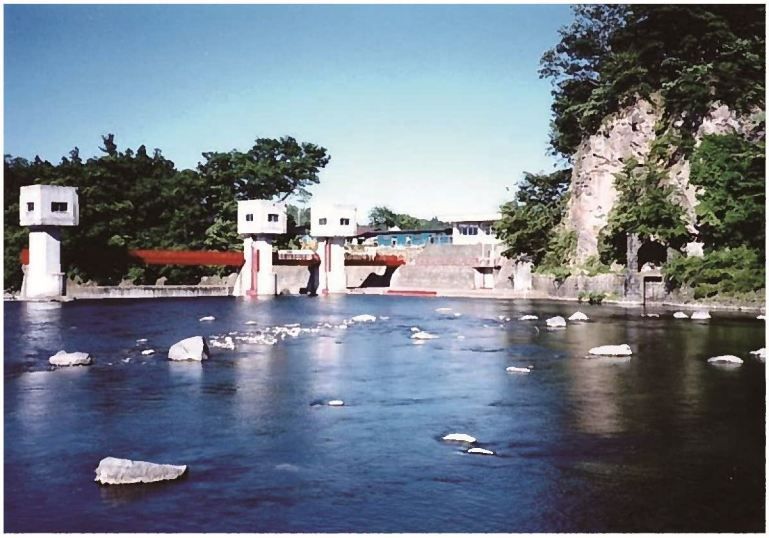


旧取水口

矢板 武
（1849～1922）

印南 丈作
（1831～1888）

現在の那須疏水幹線水路



現在の西岩崎頭首工（左）と旧取水口（右）

問い合わせ先　那須野ヶ原土地改良区連合　TEL.0287-36-0632